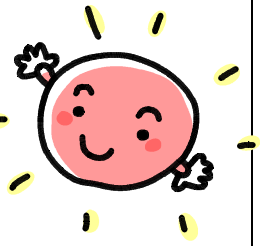


なかよし3



No.40

R5. 2. 3

望月民俗資料館に行ってきました。

社会科の「人々のくらしのうつりかわり」の単元で、昔のくらしと今のくらしを調べています。昔の平根地区（平根村時代）の地図と今の地図を比べ、昔は桑畑が多かったけれど、今は、果樹園や畑、住宅地が変わっていることに驚きをもった子どもたち。「なんで桑畑は減ったのかな。」「人が何で多くなったのだろう。」「高速道路やパラダができています。」と昔と今の違いに関心を持って調べてきました。



2月2日は、道具を中心に、昔の暮らしを勉強・体験してきました。まず、蓄音機を聴き、「電気がないのに、なんでレコードが回っているんだろう。」という問いかけに、一生懸命考えていました。「ぜんまいで動いている。」と聞き、びっくり。今では、オルゴールのような小さな物でしか、体験できません。また、「炭のアイロン」「洗濯板」「交換手につながる電話機」などと今の便利な道具を比べて、とても手間のかかる大変なくらしだったということが分かりました。

次に、囲炉裏のある板の間で、箱膳や自在鉤の体験をしました。昔は、水道がなく、水が貴重だったので、自分の食器を一杯のお湯とたくわんできれいにし飲み、から箱にしまっていたことを知り、またびっくり。自在鉤の体験は、動かすのは難しかったですが、鉄瓶や鍋の大きさに合わせて動かせるようになっている道具に感心していました。それから、天秤やしょいこの体験をしました。天秤には20kgの荷物がぶら下がっているのので、結構バランスをとって歩くのが大変でした。



今と比べると不便な暮らしでした <肩にずしりくるね> <そっと動かさないとこぼれちゃう> が、その中でも道具を工夫して、便利なくらしにしようとしている先人の努力に触れることができました。学校に戻って、道具とくらし等の年表を作りながら、人々の暮らしがどう変わっていったかまとめいき、これから、自分たちはどうしていったらいいのか、考えていきたいと思います。



左上：箱膳体験
右上：弓矢体験
左下：竪穴式住居
の様子
右下：昔の道具の
説明を聞いて
います。

